

V章 なごや多文化共生まちづくり会議

1. 開催概要

(1) 開催概要

市民の意見を直接聴き、その結果をプランに反映させる取り組みの一環として、「なごや多文化共生まちづくり会議」を開催しました。本会議では、多文化共生に関わるさまざまな立場の参加者が集まり、地域の現状や課題、今後の方向性について意見交換を行うとともに、多文化共生の地域づくりに向けた視点の整理を図ることを目的として実施しました。

(2) 日時

	タイトル	日時
第1回/第2回	子どもの日本語教育の充実に向けた連携強化ミーティング	令和8年1月30日（金）14：00～18：00～
第3回	防災訓練から始める外国人住民の地域参加ミーティング	令和8年2月3日（火）16：00～
第4回	若者から広げる多文化共生の輪—仲間を増やすヒントを共有するミーティング—	令和8年2月12日（木）16：00～

(3) プログラム

	プログラム	時間	内容
1	開会のあいさつ （あいさつ・趣旨説明）	5分	事務局より開会あいさつ
2	講演	30分	ゲストによる講演
3	本日の進め方	5分	プログラムの進め方の説明
4	自己紹介	5分	グループ内での自己紹介
5	課題（困りごと）を出そう	25分	課題（困りごと）を付箋に書き出し発表し、ボードにまとめる
6	課題の解決策を考えよう	25分	課題の解決策を書き出し発表し、ボードにまとめる
7	発表	10分	話し合った内容の発表
8	閉会あいさつ	5分	本日のお礼、閉会のあいさつ

(4) 講演内容

回	テーマ	講演者
第1回 /第2回	名古屋市における日本語教育の 現状と課題	教育委員会事務局義務教育課 観光文化交流局国際交流課 なごや子ども応援委員会
第3回	防災訓練から始める、外国人住民の地 域参加～外国人住民にも防災訓練に 参加してもらおう工夫～	名古屋市役所防災危機管理局地域防災課 NIC 防災サポーター 多文化防災ネットワーク愛知・名古屋
第4回	若者が集まり、関わり続ける場は どうつくられているのか	ハ社多文化教室 名古屋難民支援室

(5) 参加者数

回	参加者数
第1回	26 名
第2回	15 名
第3回	15 名
第4回	11 名

2. グループワーク結果

【第1回 子どもの日本語教育の充実に向けた連携強化ミーティング】

テーマ	課題	解決策
学校	● 学校・指導者ごとに考え方が違う ● 学校での取り出し授業の内容・やり方 ● 日本語を話せる子でも読み書きが難しい	● 学校全体での外国籍家庭への合理的配慮 ● トワイライトスクールで日本語指導をする ● 外国人の学習の評価を検討する
人材の不足	● 支援者の不足・高齢化 ● 教員に研修の場がない ● 日本語教室の運営費（特に人件費）	● 人員確保（指導者の育成） ● 日本語教育のマニュアル化 ● 日本語教育・ボランティアへの補助金助成
体制支援	● 初期日本語集中教室の不足 ● 地域間で支援体制に差がある ● 身近にアクセスできる日本語教室や居場所のなさ	● 地域リソースの提供 ● 学区ごとに初期日本語集中教室を設置 ● 教室を徒歩圏内に設置する、送迎を支援する、オンライン対応する
異文化	● 価値観や認識の違い ● 日本の制度のわかりづらさ ● おたよりやお知らせの日本語が難しい	● 文化講座（外国・日本の文化の理解を深める） ● HPや広報を多言語で見られるようにする ● 国民性の違いを理解していく
家庭	● 保護者との連携 ● 子どもと保護者の言語コミュニケーションがうまく取れない	● 母語の教育支援 ● 家族への心理教育

【第2回 子どもの日本語教育の充実に向けた連携強化ミーティング】

テーマ	課題	解決策
学校	● 学校によって対応に差がある ● 教員の認識不足	● 日本語教育できる教員の育成 ● サポーターが同行する（見学时・入学時）
人材の不足	● 教員・ボランティアの不足 ● 学習支援の内容、どこまで支援すべきか	● 教室公開デーを設けて興味をもってもらう ● SNS・オンラインプラットフォームの活用（若手の目に留まる） ● 研修会の企画・実施
教室の不足	● 初期日本語集中教室の定員不足 ● 会場の確保が難しい ● ボランティア教室の運営が大変（金銭面）	● 学校の空き教室開放や休日利用 ● 初期日本語教室の増設・送迎支援 ● 日本語教室への助成
連携・情報共有	● 学校・日本語教室・ボランティアとの連携 ● 学校・家庭・地域での様子の共有 ● 子どもを包括的にサポートする仕組みがない	● 他教室との交流・既存グループとの連携 ● 社会福祉協議会との連携 ● スクールソーシャルワーカーが地域の教室とつながり、学校との関係づくりを促す
家庭	● 保護者も日本の教育やこの先のことをイメージできない ● 保護者のサポート・協働 ● 不登校状態にある子どもの日本語教室へのつながりにくさ	● 家庭全体への支援・アプローチを地域と学校で協力して進める ● 子ども食堂や教室・団体との連携 ● 保護者も参加できるイベント・交流会の開催

【第3回 防災訓練から始める外国人住民の地域参加ミーティング】

テーマ	課題	解決策
情報の伝え方	● 防災訓練の情報の伝え方 ● 防災を伝える・説明するツールがない ● 多国語の告知をHPで行っているが伝わっているのか	● やさしい日本語・英語を使う ● 防災手帳・チラシ・回覧板などで周知する ● 学校と連携して協力してもらう ● 基本情報を地域で掲示する
参加のきっかけ	● 誘い方がわからない ● 関わりが持てていない ● 地域活動への参加を促せていない ● 町内会に入っていない外国籍の住民が多い	● 学校・職場単位での働きかけ ● コミュニティーのLINEによる周知・伝達 ● 普段から地域の中で集う機会を作る ● 住民が得意なことに関わる
参加のハードル	● 一人で行くのにハードルを感じる ● 訓練に参加してもらった時のフォロー（通訳、仕組みの説明） ● 参加したいと思える防災訓練になっていない	● 子どもが喜ぶようなノベルティ配布 ● 祭りなどのイベントから防災訓練につなげる ● 防災意識がなくても楽しめる内容
開催日程	● 日程に問題がある（宗教関係など） ● 防災訓練が長くなりがち	● 短時間・好きな時間で参加できるようにする ● 働いている人でも参加しやすい時間にする
防災意識	● 参加するメリットがわからない ● 防災訓練の必要性を認識していない ● 関心を持っていない	● 消防署・学区等で防災への関心を高める ● 地震体験車、消火体験など（スーパーマーケット等で） ● 祭り行事等で防災訓練を行う

【第4回 若者から広げる多文化共生の輪 ―仲間を増やすヒントを共有するミーティング―】

テーマ	課題	解決策
仲間	● 一人だと不安 ● 既に仲間ができていて入りづらい ● 既にあるコミュニティに参加することへの不安	● コミュニティ内からの歩み寄り ● 関心がありそうな人を見つけて個別に声かけ ● 知り合いを通して声かけ
異文化への不安	● 語学力への不安 ● 知識、貢献できない ● 相手の「当たり前」とのギャップ	● 事前勉強会などを行う ● やさしい言葉を使う（特に広報） ● スポーツやゲームなどの遊びから入る
興味・関心	● 興味関心を持ちにくい ● 楽しいと思える内容、興味を持てるかどうか ● 海外のことに関心が向かなくなっている	● 広報のアプローチを増やす・変える ● 興味がある人に向けての説明会や講座 ● 実際に活動する人の話を聞く ● 好きなことを入り口につながりを探る（韓流など）
情報	● 参加者がどういう人たちなのかわからない ● どこで何をしているのかわからない ● 知らない世界に関わることへの不安	● 身近に感じられる情報の発信・データ収集 ● SNSでの発信 ● コーディネーターがサポート
活動のハードル	● 他の活動との両立が難しい ● 金銭面・時間・体力のバランス ● 継続できるか不安 ● 目に見えるメリットに乏しい	● できる範囲でやる・強制しない ● 目的意識・方針を持つ ● メリットの提示(今後の社会でどのように影響するのか)

